2　調査結果

2－1　調査要約

(1) ウガンダ政府の姿勢

ウガンダ政府の外務省、大蔵・計画・経済省、その他関係省庁を表敬ないし打ち合わせのために訪問したが、訪問先すべてで協力隊を歓迎する旨の発言があり好印象を持てた。特に、外務省および大蔵・計画・経済省においては、隊員の配属が想定される機関を調査した際に、幾つかの機関には担当職員が同行してくれるという力の入れようであった。外務省の国務大臣(Minister of State)からは、隊員がスムーズに任地に溶け込み活動に専念できるよう、隊員を派遣する前に、ウガンダの状況について十分準備してきてもらいたいとの発言があった。

(2) 隊員派遣分野

主な要請は、教育・スポーツ省、農業・畜産・水産省および保健省から発出されており、調査団としてもこれらの分野に重点を於きたいと考える。(ちなみに、我が国の対ウガンダ経済協力方針の重点分野は①基礎生活支援、②人的資源開発、③基礎インフラ整備、④農業開発）また、ウガンダ政府は民営化を押し進めており、一部の省庁からは隊員の民間セクターへの派遣の可能性について打診があった。調査団からは、政府の関係機関を通じた要請があり、かつ隊員派遣先として妥当であると判断できれば可能であると回答した。

(3) 公式要請接受時期

可能ならば調査期間中に公式要請書（ブルーシート）を回収して持ち帰る予定であったが、先方政府省庁内での取りまとめに時間を要し、一方当方からも各省庁からの複数の要請書にたいしてウガンダ政府として優先順位をつけた上で在ウガンダ日本国大使館に公式要請するよう依頼したので、要請書発出期限を6月末日とした。従って、協力隊事務局へは7月上旬に通知される予定である。

(４)短期緊急派遣隊員の派遣

ムコノ農業普及訓練所の無償資金協力のプロジェクトが 2000 年６月末で終了する。同プロジェクトで農場運営および財務管理を指導中のコンサルタントの意見は、平成 13 年度１次隊（2001 年７月）での隊員派遣で特に問題ないとのことであったが、これまでの JICA からの協力効果を低減させないため、また農業分野における通常隊員の受入体制を整備するための理由から、調査団としては、先方から非公式に要請のあった野菜と家畜飼育の分野で適格者がいれば短期緊急派遣隊員として正式要請があった段階で派遣可能であると判断する。派遣時期は事務所設立後の 2001 年１月以降で派遣期間は通常の隊員との継続を考慮して６ヶ月から 12 ヶ月が適当と考える。

(５)医療

医療施設について調査を行い、当面は英国大使館内で開業している英国人医師に診断してもらうのが適当であろうとの結果を得た。入院が必要な場合はカンパラ市内にあるコロロ病院（入院施設を持ち、外国人も利用する民間病院。ベッド数 25 床、手術室・救急外来室がある）に入院することとし、さらに緊急かつ高度な治療が必要な場合は AAR（African Air Rescue）会社を利用することができる。

(６)援助機関

VSO（Voluntary Service Overseas）とフランス大使館（近々The French Association of Volunteers for Progress（A.F.V.P.）が活動を始める予定）を表敬し、協力隊事業について説明するとともに、協力隊の事務所開設後は協力しあうことを申し合わせた。昨年５月から活動を中断していたアメリカンピースコーは今年末から再開する予定であるとの情報を得た。

(７)物価

カンパラ市内で物価調査と物品調査を行った結果、価格はナイロビより総じて高めであるが品物の種類や量は隊員の日常の生活に不自由はない程度に調達できる。果物や野菜の種類は多く、米も日本米と遜色ないものが手に入る。

(8) 事務所

事務所用物件としては、カンパラ市内のオフィスビルの一室を借りる事も可能であるが、VSO の事務所がそうであるように、隊員連絡所をかねて、一軒家を借りることも可能のようである。物件と借家料金については未調査。外国人用の住居の月額家賃は 2000～2500 米ドルが相場であり、調整員自宅用としての物件はいろいろあるようである。

(9) 通信

日本との電話通信は良好である。ケニアのナイロビとは数回試行したが通じなかった。E-mail のプロバイダーは市内に２カ所ある。携帯電話がカンパラ市内では普及しており海外との通話も可能である。但し、国内での通信範囲は限られている。エンテベとカンパラ間の携帯電話での通話は可能であった。インマルサットはホテルのベランダから日本への通信を数回試みたが通じなかった。

２－２　調査結果要約一覧表

	要請機関	所管省庁	職種	調査結果内訳		備考
1	チャンボゴ教員養成学校	MoES	木工	○		現場調査済み
2	〃	〃	金属加工	○		〃
3	ウガンダ体育協会	〃	陸上	○		現場未調査
4	〃	〃	スポーツ医学	○		〃
5	〃	〃	体育	○		〃
6	マケレレ大学	MUK	S/E	○		〃
7	〃	〃	自動車工学	×	専門家レベル	〃
8	セカンダリースクール	〃	理科教師	○		〃
9	ムコノ農業普及訓練所	MoAAIF	野菜	○		現場調査済み
10	〃	〃	家畜飼育	○		〃
11	農業省	〃	病虫害	※	今後見込まれる要請	現場未調査
12	〃	〃	果樹	※		〃
13	〃	〃	きのこ	※		〃
14	〃	〃	土壌肥料	※		〃
15	家畜検査所	〃	獣医	○		現場調査済み
16	ムラゴ病院	MoH	医療機器	×	専門家を要請済み	現場未調査
17	〃	〃	看護婦	○		現場調査済み
18	ウガンダエイズコミッション	UAC	視聴覚機器	○		〃
19	ルゴゴ職業訓練所	MoES	自動車整備	×		〃
20	ナカワ職業訓練所	〃	電気その他	×	専門家が活動中	〃
21	ムゲベワークショップ	MoWHC	建設機械	×	専門家が活動中	〃

○：調査の結果、協力隊員に適していると考えられる活動先

×：調査の結果、現段階では活動先として適さない

※：今後の活動先として考慮したい

MoES　：Ministry of Education and Sports

MUK　：Makerere University

MoAAIF：Ministry of Agriculture, Animal Industryand Fisheries

MoH　：Ministry of Health

UAC　：Uganda Aids Commission

MoWHC：Ministry of Works, Housing and Communications

2－3　協力隊活動のニーズ

ウガンダ政府の省庁や関係機関を訪問して気づくことは、多くの政府役人や関係者がJICAの協力を熟知しており高く評価していることである。

ウガンダ政府の当面の課題は貧困軽減であり、この大目標のために外国からの援助に期待している。我が国の対ウガンダ国への協力方針も①基礎生活支援、②人的資源開発、③基礎インフラ整備、④農業開発となっており種々の技術協力がこの方針に沿って実施されているところであるが、協力隊の活動分野も大枠ではこの方針に乗っ取ったものとしたいと考えている。

多くの途上国で共通する課題であるが、ウガンダにおいても中堅技術者、いわゆるプラクティカルな分野で活動できる人材が不足しており、人づくりの観点からさまざまな職種で草の根レベルの技術協力は必要とされている。また、日本の政治・経済や日本文化等をウガンダの人々に広め人的交流を促進する目的からも協力隊事業の展開は重要な意味を持つといえる。

隊員一人の与えうる影響は想像以上に大きいものである。どのような地域にどのような分野の隊員を派遣するか、十分に任国や任地の研究をし情報を収集しながら展開することが大切である。隊員の健康管理を含めた安全管理に配慮しながらウガンダ側の期待に応えていくべきであろう。

これまでウガンダ国内で実施されてきたJICA事業との連携および、今後予定されている各種のプロジェクトとの関連性も踏まえた派遣計画を立てる必要がある。

2－4　重点分野

ウガンダ側からの要請と日本側の上述した協力方針を鑑み、教育、医療、農業の分野に重点を置くことが妥当であろう。

2－5　派遣計画

当初は年間10名程度の派遣を予定し、隊員の活動環境や任国の事情を逐次把握しながら少しずつ隊員数を増加していくのが賢明であろう。派遣計画および派遣までのスケジュールは以下のとおりである。

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
要請数（春＋秋）	10	15	15	15
新規派遣数（1～3次隊）	0	9	12	12
活動数隊員数（年度末）	0	9	21	24

＊13年度は10の要請に対して9名が確保でき、14、15年度は15の要請に対して12名が確保できる、と仮定している。

派遣までのスケジュール

1999. 8 . 17	旧E/Nを補完するE/Nの締結
2000. 6 . 3～6 . 18	新規派遣要請背景調査
2000. 7上旬	平成12年度秋募集新規要請受領予定
2000. 8	協力隊調整員赴任予定
2001. 2	秋募集合格者決定
2001. 4～2001 . 6	平成13年度第1次隊派遣前訓練
2001. 7	同隊員赴任

２－６　協議内容

6月6日 Ministry of Foreign Affairs (MoFA)

団長がこれまでの経緯と協力隊の概要について説明した。調整員事務所の開設については、本年8月に調整員が赴任予定でありその後開設する。

外務省国務大臣（Minister of State）が、ウガンダ派遣隊員に対して、任国事情や日本と違う環境で活動する心構え等につき準備を十分にしてきて欲しいとの要望があった。大臣曰く、LIFE IS A LITTLE HARD BUT EXITING.

また、首都で活動するより地方での活動を期待したい、とも発言があった。

ウガンダは民間セクターの育成に力を入れているが、この分野への協力隊員派遣は可能か、との質問があった。これに対して、政府組織を受入先として隊員を派遣し、民間セクターが勤務先という形であれば可能であると回答した。また、農村開発のような分野にも協力してほしいとの発言があり、シニア海外ボランティア制度にも興味を示された。

６月６日　Ministry of Finance, Planning and Economic Development (MoFPED)

先方から日本からいろいろな分野に協力してもらっており感謝しているとの発言があり、松本ケニア事務所次長がケニアにおける協力隊活動の現状を説明。団長が協力隊の概要と派遣前訓練について説明する。また、隊員住居についてE/Nにあるようにウガンダ側で準備してほしい旨要望したがその場では明確な回答は得られなかった。隊員の正式要請書は大蔵省が取りまとめ、外務省を経て在ウガンダ日本大使館に通知されるということが確認された。

６月６日　Ministry of Education and Sports (MoES)

団長が協力隊事業の概要を説明したのに続き、教育・スポーツ省が必要とする隊員の派遣分野を質問した。ウガンダ側から、ナカワ職業訓練校は日本の援助で効果を上げている。1997年のUPE（Universal Primary Education:初等教育完全普及）の実施以来、７年生の就学数は増加している。教育・スポーツ省は７年生に進学できない子供達を中学校か職業訓練校に入学させるよう努力してきた。職業訓練や技術教育は教育・スポーツ省が外国からの協力を必要としている重要な分野である。政府として郡(sub-county）毎に一つの中学校、県（county）毎に一つの技術学校（polytechnic）の設立を計画している。政府は科学教育に力をいれており、中学校への科学分野の教師を必要としている旨の回答があった。

教育・スポーツ省から隊員の要請数及び要請に当たっては技術レベルを要望できるか、との質問が出された。これに対して、技術レベルについては公式要請書にその項目があるのでそこに記載するよう説明した。さらに、調査団から当初は10程度の隊員派遣を考えており、教育・スポーツ省から３名程度の要請提出を希望していると説明した。

教育・スポーツ省としては、関係機関の要望をとりまとめた上で、６月12日に調査団と再度会議を持ちたいとのことであった。

６月７日　Ministry of Agriculture, Animal Industry and Fisheries (MoAAIF)

熊野団長からE/Nの内容と協力隊の理念について説明した。

農業省側から隊員の活動期間、ウガンダ側がなすべき事項、隊員の機材、及び隊員の資格について質問があった。また、隊員の活動内容について、専門家のように活動計画にそって活動しているのか質問があった。調査団から専門家と隊員の活動は若干異なり、隊員は配属先の活動計画に沿って活動すると回答した。

先方からの隊員の２年間の活動期間中の先方の財政負担についての質問に対し、隊

員の住居費と国内出張費が主な出費項目で、具体的な金額は任国によって異なると説明した。

先方から隊員が任地に適応できない場合の対処について質問があった。これに対して、調整員がカウンセリングを行い、関係者と相談してベストの対応をすると説明した。先方からさらに不適応の隊員を無理に引き止めておくのはよくないし、ボランティアは帰国の決定は本人の意思を尊重すべきであるとの意見が出された。

シニア海外ボランティアについて説明したところ専門分野での経験が豊かである点に関心を示した。

イギリスのボランティアは派遣に当たり、数名の候補者の履歴書をウガンダ側に提示して、ウガンダ側が選択しているとのことであった。

6月7日　Ministry of agriculture, animal Industry and Fisheries
Diagnostics and Epidemiology Centre（家畜診断疫学研究所）

家畜診断疫学研究所には1999年度にJICAの専門家が派遣され調査研究を行っている。研究所所長と3名の研究員に面談した。研究所で行われている事項について説明をうけ、当調査団からは協力隊の事業について説明した。専門家の活動が高く評価されているためか、隊員には期待が大きいようである。研究所にしては素人目にも施設は十分とはいえず、隊員が入った場合は活動のための資機材の調達から始めなければならないだろう。

6月7日　Nakawa Vocational training Centre（ナカワ職業訓練所）

日本からの技術協力が実施されている。現在専門家が9名派遣されている。坂本プロジェクトリーダーと牧野調整員に調査団に説明をし、先方からプロジェクトの現状について説明を受けた。調査の結果、職業訓練分野への協力隊員の派遣については、現在このプロジェクトが進行中であり、もし隊員が入るとすればナカワ以外の訓練所か、あるいは当面はこの分野への隊員の派遣は見送るか、いずれかが妥当との結果を得た。

6月7日　Makelele Universitu（マケレレ大学）

マケレレ大学の事務局長に面会。その後、工学部、農学部、社会学部から各担当者が出席して、協力隊の説明をして、質疑応答を行った。どの学部も協力隊には興味があるようであったが、要請内容は大学の講師としての活動であり、高いレベルが求められるようである。

6月8日　National Council of Sports（スポーツ協議会）

1997年に行った協力隊の事前調査を覚えており、基本的な協力隊の理解はあった。今回の調査では、体育、スポーツ科学、陸上の職種を要請したいとの意向が出された。体育については学校で教えることになるため、教育局と協議が必要とのこと。先方から、隊員の機材・住居・移動手段・要請の手続き等について質問があり、住居と移動手段については要請側の責任で負担してもらう旨説明した。

6月8日　Mukono District Farm Institute（ムコノ農業普及訓練所）

日本の無償資金協力援助が実施されており、2000年6月末で終了する。

以前の協力隊の事前調査もなされており、協力隊の理解は高い。農業省のプロジェクト担当者、無償協力で派遣されている日本人のアドバイザーからそれぞれ訓練所の現状について説明を受けた。当方からは、今回の調査の目的と協力隊派遣についての今後の計画等について説明した。日本からの援助を継続させる上からも、一般隊員の派遣までの橋渡しとしての役割から、シニア隊員を早期に派遣することも考慮していいかもしれない。

6月8日　Bugembe Central Workshop（ブゲンベ建設機械ワークショップ）

JICAから中山専門家が派遣されている。ウガンダ国内で最も設備の整った建設機械の修理工場である。専門家から工場内を案内していただいた。建設機械の分野で派遣するとすれば、ブゲンベ工場での専門家の活動が多いに参考となるだろう。

6月12日

大使館の岩間書記官と合流し、外務省で事務次官のMr. Ralph W. Ochanと面談。先方から先のE/N締結以来、隊員の派遣を30年間待望していたとの挨拶の後、報告及び協議（質疑応答）を行った。

当方からは訪問先から口頭で約20件の要請を受けた事と8月に予定される調整員の派遣及び事務所の開設が隊員派遣実現の大きな要素になる事を説明した。

先方からの隊員派遣に約1年を要する理由に関しての質問には協力隊のシステム上やむを得ない期間であり、ウガンダの予算年度と受入環境整備を勘案すると必要な期間と認識していると回答した。当方からの住居提供ガイドラインに係る質問にはこれを作成するとの回答がなされた。

大蔵省で局長の Mr. Patric Ocailap と面談。口頭で出された要請内訳を説明した際に、教育省からの要請について質問があったが、その時点では未接受である旨回答した。また、先方の個人的見解としてムラゴ病院、ムコノ農業普及訓練所、マケレレ大学、ウガンダ体育協会の順に優先度が考えられるとの意見が表明された。これに関してはウガンダ側関係者が協議して決定願う旨要請した。

当方からは、隊員の受入条件について、住居（安全性、通勤の利便、家具の用意）や活動に係る移動手段、機材の提供についての確認を行った。

ウガンダの一般公務員向けには職員住宅は存在せず、給与から各自が住宅費を捻出しているとの事であり、標準的な家賃は米ドル 200～300 で、市内での安全な住居の確保は困難ではないとの説明があった。先方からの隊員を１カ所に集めて居住させては、との提案に対しては、協力隊の理念と異なる事を説明の上否定した。なお、マケレレ大学等の教育機関や農業普及訓練所等には職員住宅があるとの事である。

隊員の海外手当についてケニアの隊員の例を上げて説明し、さらに治安状況と余暇を過ごす施設等に係る聞取りを行った。最後に要請の公式化の流れを再度説明し、6月末までにウガンダ側がとりまとめを行う様に諸手続の確認を行った。

教育、スポーツ省で Mr. Godfrey Arnold Dhatemwa（計画・予算担当副局長）と面談。本調査団との２回目の協議については関係者に周知されているが、当日は出張等の不在者が多く、各部門からの要望が同氏を介して紹介された（以下のとおり）。

（1）教諭の再教育部門でオーディオビジュアルと婦人子供服。

（2）中学校教諭、幼稚園教諭（私立）、小学校への図工教諭。

（3）職業訓練に関して、木工、婦人子供服、金属加工（メタルワークス）、エレクトロニクス。

当方からウガンダの就学システムや就学率等の質問を行ったが、東アフリカの他国のシステムにほぼ共通している。なお、就学、修了、進学等の割合には明解な回答が得られなかった。先方から要請の公式化についての質問がなされたので、岩間書記官が専門家派遣を例にして説明の後、大蔵省とも協議してウガンダ側で要請を調整するように依頼した。

最後に当方から隊員の安全管理や活動環境の整備の観点から少人数で派遣を開始する方針である旨説明した。

保健省で Mr. J. W. Wagonda Muguri（事務次官）と面談。パンフレットを手交し、E/N、隊員派遣の条件、ウガンダ側の手続等について説明。さらにこれまで口頭で要

請のあった職種について説明を行った。先方は今回までの要請背景調査団訪問の際に提出された要請については認識があり、それを前提に微生物研究者の要請が提示された。また、他の医療関係隊員の派遣の可能性についての質問があったのでパンフレットで説明を行った。

医療従事者の資格については、派遣の障害になり得る事項なので関連する質問を行った所、省レベルでは具体的な回答が得られなかった。受入条件や必要な手続については文書化して要請書類に添付する事で合意がなされた。

チャンボコ教員養成学校で Prof. Albert James Lutalo-Bosa（学校長）、Ms. Mary Goretti Katusabe（事務局長）と面談。３年前の要請背景調査から今回の調査団が訪問するまでの経緯を説明。面談者は前回（平成９年９月）の調査時と同一人物だった。先方が過去の要請を見直した結果、保健婦は取り下げられて農業指導とテクノロジースタディ（木工、金属加工（溶接））が新たに要請された。候補者確保の状況を説明し、過去に要望があったスポーツ指導について確認を行うと、スポーツ隊員についても要請したいとの回答を得た。

同校の教育システムについて資料を請求し提供を受けた。

また、改めて隊員派遣に際して配属先に求められる条件の説明を行った。この後、岩間書記官から同校から要望があった文化無償援助に係る質議応答を行った後、隊員派遣が要望されている部門を中心に施設の視察を行った。同校では、家具デザインに VSO 隊員が１名活動中との事で、住居の提供は可能との回答が得られたが、現物は確認できなかった。

６月 13 日

フランス大使館で Mr. Alexandre Lamige（技術協力担当書記官）と面談。調査団のウガンダ訪問の主旨を説明の後、先方の活動状況等の聞取りを行った。

先方のボランティアはウガンダ国内では未だ活動を始めておらず、ブルンディで活動を行っている。今後、ウガンダ（カンパラ市役所）で社会開発関係の活動を立ち上げる予定があり、面談者が現地責任者になる可能性が示唆された。他国のボランティア団体の活動については何ら情報をもっていないとの事である。

緊急時の本国への退避計画は確定されているが、ボランティアの健康管理体制はこれから準備を始める模様である。最後に調整員事務所開設後は相互に多面的な情報交換と協力を行う事で了解がされた。

市内での物価調査の実施。(大島医療調整員は別行動で医療施設等の調査)

米、醤油（中国製）を除く日本食は入手できないが、衣料品、靴、台所用品、家電、日曜雑貨、スポーツ用品等ほとんど入手可能で本邦からの荷物の持ち込みは必要ないと思われる。

事務所開設に必要な物品も現地で入手可能で、コピー機等の保守契約は可能、但し、リースはなくコンピューターはウインドウズのみが流通している。

6月14日

MULAGO HOSPITAL COMPLEX で看護部長と面談し、以下の点について、双方で確認した。

P.O.Box 7051 Kampala　Tel：540440 (Senior Principal Nursing Officer's office)

面談者：Mrs. Naluswa (Senior Principal Nursing Office)

Mrs. Nangaga Elizabeth Florence (ICU Nurse)

・本病院の院長から要請があった ICU 看護婦について、看護部が経緯を把握しているか確認したところ把握していた。

・看護婦の臨床経験年数については３年以上が望ましい。病棟の看護婦との人間関係の構築には、出来る限り年齢が上の方が望ましい。

・医療事故対策：HIV 感染対策（抗ウイルス剤の内服）については、院内での対策は出来ていない。事故に対する薬の保管も無い。ただし、手袋やガウンを使用し予防対策は講じている。

・JOCV 看護婦については、臨床指導者（インストラクター）として活動してもらう。出来る限り、直接患者に接触することを避けるようにする。

・カウンタパート（協力者）は、日本で研修（三井記念病院４ヶ月）を受けた経験のある看護婦がいる。

「ICU について」

看護婦 36 名（准看護婦はいない)。ベッド 12 床。３セクションに分かれている。人工呼吸器４台。自動輸液ポンプあり。モニターあり。酸素については中央酸素室が無く酸素ボンベ使用。吸引器についても、設置のものは無くポータブルタイプを使用。隣室に腎透析室があり２台の透析器がある。

「印象」

訪問時、患者数は５名のみで、がらーんとしていた。室内は雑然としており、全てこれからという感じ。一般的な ICU 看護が出来る隊員ならば十分に対応できると思われた。ICU 担当看護婦及び病棟医長に会ったが、非常に温厚な人柄であった。

「病院全体について」

ベッド数：1500床、看護婦（准看護婦500名、正看護婦300名）

看護婦勤務時間：8:00〜17:00　日勤

14:00〜20:00　午後勤務

20:00〜08:00　夜勤

ウガンダ国内でCTスキャンを唯一有する病院。

2－7　医療隊員の免許登録

看護婦・助産婦評議会訪問（Uganda Nurses and Midwives Council）

面談者：Mrs. Victoria Nalubega(Assitstant Registrar, Senior Nurse Tutor)

Mr. Paul Luyima(Assistant Commissioner of Health Services head Environmental health Division)

場所：Ministry of health ground F. Block C, door 4, P. O. Box4046, Kampala

6月 13 日（火）9時訪問。Mrs. Matte（Registrar)が出張で不在の為、代理のMrs. Nalubega と面談し、医療隊員（看護婦・助産婦・保健婦）の派遣に伴う登録の必要性の有無や要請内容について双方で協議した。

ウガンダの看護婦養成教育は、英国式に準じたもので、実習中心の教育内容であることを理解した。一方、現在の日本の看護教育では、実習時間が極端に少なくなってきている。その結果、日本の履修登録時間数（臨床実習数）ではウガンダの審査基準に達しないことは明らかである。以上のことを踏まえ、最悪の事態（隊員派遣後、審査に合格出来ず帰国する）を避ける為、当方から日本の看護教育の内容について説明をして、先方の審査基準に達する最小限の臨床経験年数について回答を求めた。例えば、ムラゴ病院のICUで看護婦として活動する場合は、少なくとも臨床経験3年以上が望ましいとのことであった。

以下に、免許登録申請に必要な書類や、隊登録手順について示す。

① ウガンダで医療行為（活動）をする場合、それぞれの分野の評議会へ免許登録をすることが義務づけられている。外国人である隊員は、看護婦・助産婦評議会へ免許登録の申請を行う。医療事故が生じた場合、免許の取得の有無が大きく影響する。

② 免許登録に必要な書類は以下のとおり。派遣前訓練前に隊員候補生に通知し、書類を準備してもらい、派遣前にウガンダ事務所へ送付し、手続きを行うのが望ましい。看護婦として登録される場合でも、他の免許証を取得している者は、

取得している免許証を全部提出する方が良い。

・各養成校の卒業証明書（英文）

・各養成校の履修登録証明書（英文）

・各免許証オリジナルのコピー（邦文）

・各免許証（英文：厚生省発行）

・英文履歴書（臨床経験歴は詳細に記入）

＊評議会からの独自の記入用紙は無い。

③ 登録申請用紙については、ウガンダ事務所が記入する。

④ 登録料：１免許証に付き、100米ドル（キャッシュのみ）。

⑤ 免許登録については書類審査のみ。口頭試験無し。基準に満たない場合、登録されない。他国（ケニア）で要求される補完研修制度は無い。

⑥ 看護婦（Registered General Nurse）として登録する場合、助産婦の資格所有は必要とされない。

＊看護婦と助産婦の養成はセットになっておらず、各々３年の養成課程終了で免許取得となる。

⑦ ウガンダの一般看護婦は、0レベル取得者で３年の養成課程を終了し、国家試験を経て免許証が与えられる。その点を考慮すると、日本の看護婦については３年の臨床経験で十分と思われる。しかし、実習重要視のウガンダのカリキュラムに基づいて査定される可能性が高いので、隊員の臨床経験年数に応じて選考する必要がある。

新卒者：要請された分野での臨床経験が５年が望ましい。

経験者：他の分野での臨床経験があれば、要請された分野での臨床経験が３年以上あることが望ましい。

⑧ 看護婦・助産婦については、准看護婦（Enrolled）と正看護婦（Registered）の２種がある。Registered Nurse の他、Registered Cmprehensive Nursing コースが設置されており、A レベル取得者で４年課程となる。資格は Diploma In Comprehensive Nursing となり、保健婦と同タイトルが与えられる。

「今後の課題」

免許登録が必要とされる分野での要請については、ウガンダの看護婦・助産婦・保健婦の養成課程を考慮した場合、看護婦については十分対応出来ると思われるが、他２種の要請については十分な検討が必要とされる。特に、保健婦については、看護婦免許証＋助産婦免許証取得者で保健婦養成課程（１年）を終了した者となるが、看護

婦と助産婦の教育期間がそれぞれ3年の為（ただし、助産婦については看護婦の資格があれば 18 ヶ月コースで資格取得可能)、日本のそれでは必要履修数に満たさないので注意を要する。

＊詳細については医療従事者の教育養成ガイドライン参照。

２－８　他国援助機関の動向

（１）VSO (Voluntary Service Overseas)

ウガンダでの活動は 1962 年から行われており、現在は 52 名が活動中である。平均年齢は 42 歳。活動分野は教育、身障者のリハビリ、土木や機械の技術者、天然資源、小規模企業、社会開発等の分野で活動している。カンパラ周辺だけでなく地方都市へ広く展開している。

（２）AFVP (The French Association of Volunteers for Progress)

1963 年に設立された。ウガンダにおいて近々に展開を考えている。近隣ではブルンジで活動している。1997 年の実績は、23 カ国で 350 人の隊員が 300 人のローカルスタッフとチームを組んで活動している。

（３）Peace Corps (アメリカ平和部隊)

1999 年に治安悪化を理由にウガンダから引き揚げているが、今回の調査では、2000 年 10 月ごろに再開の予定であるとの情報を得た。

２－９　生活環境

（１）水・電気・ガス

飲み水はミネラルウオーターを購入している。(1.8$/３ℓ) 電気代、ガス代は未調査であるが、カンパラにおいては停電はほとんどないとのことであった。家庭での料理には電熱器を使用している。

（２）衣類

カンパラでは大抵の衣類は入手可能である。年間をとおして気温は 20～23 度くらいであり、日本の春か秋の装いを想定すればいい。

（3）食事

食材は豊富である。米も日本米に似たものが手に入る。野菜は種類が多く、果物も豊富である。肉も各種売られているが魚は淡水魚に限る。

カンパラ市内にはレストランが数軒あるが、値段は東京で食べるものと同じくらいであった。

（4）住居

生活で最も問題となるものは住居であろう。特に単身者用の物件は少なく治安を考慮して地域を限定するとなると物件はかなり限られるらしい。大きな家に複数で住むことも選択肢に入ることになろう。

（5）移動手段

市内はタクシーも多く、乗り合いバスも頻繁に走っている。タクシーの値段はメーター制でなく、交渉によるらしい。外国人は割高になると聞いた。（市内は約７$）

（6）通信

カンパラとエンテベは携帯電話が使用可能であり、海外へも通話可能である。ただし、ケニアのナイロビへの電話交信は数回試みたが不通であった。（国際電話料金は 1.8$/１min.）パソコンでのメールは可能であり、プロバイダーはカンパラ市内に２社ある。

（7）余暇

スポーツクラブはいくつかある。テニス、ゴルフ、バトミントン、水泳、スカッシュ等楽しめる。ディスコも数軒あると聞いた。ナショナルパークは国内に数カ所あるが治安の問題があり、行けるところは限られている。

２－10　物価調査一覧

支出項目	品名	単価（現地通貨）	US$額	備考（補足説明等）
被服費	運動靴	28000	18.67	1足
	ゴム長靴	13000	8.67	1足
	雨具	45000	30.00	
食費	米	14900	9.93	5kg
	醤油	2300	1.53	150mℓ
	外食	10000	6.67	1食分
	ハンバーガー&コーク	5000	3.33	
	下宿		200.00	
光熱費	灯油代	950	0.63	1ℓ
日用品	石鹸	1500	1.00	1個
	シャンプー	5700	3.80	1個
	歯磨き粉	2600	1.73	1個
	トイレットペーパー	2900	1.93	4巻
	洗濯洗剤	31500	21.00	5kg
	乾電池	4900	3.27	
	食器一式	100000	66.67	
	ナイフ&フォーク	10000	6.67	
	水フィルター	75000	50.00	
	アイロン	62000	41.33	
	オーブントースター	97500	65.00	
	電気炊飯器	12500	8.33	
事務用品	金庫	850000	566.67	
	椅子	320000	213.33	
	机	310000	206.67	
	キャビネット	295000	196.67	
	FAX機	2000000	1333.33	
	コピー機	7000000	4666.67	
	パソコン&プリンター		1950.00	
嗜好品	コーヒー	14700	9.80	200g
	紅茶	1900	1.27	50g
	コーラ	500	0.33	300mℓ
	たばこ	2000	1.33	
	ミネラルウオーター	2700	1.80	
交通費	ガソリン	1410	0.94	1ℓ
	ディーゼル	1140	0.76	1ℓ
通信費	国際郵便	1400	0.93	20g
	国内郵便	300	0.20	
	国際電話	2600	1.73	1分
教養費	新聞	700	0.47	
その他	フィルム	3500	2.33	36枚
	現像代	1500	1.00	プリント250／枚

2－11　医療調査

（1）疾病状況について Mr. Paul Luyima (Assistant Commissioner of Health Services head Environmental health Division) に話しを聞いた。

1）主要疾患（外来患者：1997年）

マラリア	28.5%	
呼吸器系感染症	22.0%	
消化管寄生虫感染症	9.0%	
下痢疾患	7.2%	＊（腸チフス、赤痢、コレラを含む）
外傷	6.5%	
皮膚疾患	4.6%	

＊出所：Surveillance Report (July to December 1998)

2）主要死因

マラリア	22.8%
呼吸器系感染症	11.6%
消化器系感染症	10.3%
肺炎	9.2%
HIV/AIDS	7.3%
外傷	3.5%
髄膜炎	3.4%
結核	2.9%

＊出所：Major Causes of Mortality 1995 (MOH)

3）風土病について

a）最も多く見られる疾患

赤痢（細菌性・アメーバ）、細菌性下痢、ジアルジア症、腸チフス、ウイルス性肝炎（Ｂ型肝炎は極めて多い、Ｃ型肝炎については不明）

b）一般的に見られる疾患

マラリア、フィラリア症、糸状虫症（オンコセルカ）、トラコーマ
消化管寄生虫感染症、住血吸虫症、ドラクンクルス症、

c）他の疾患（一部の地域）

リケッチャ感染症、ブルセラ症、回帰熱、髄膜炎、狂犬病、エキノコッカス (Animal breeding areas)

出所：質問、Travax Report, July 1997

d）その他特記事項

カンパラ在中の外国人や他のボランティアで多く見られる疾患はジアルジア症、急性胃腸炎（下痢症含む）、発熱、急性呼吸器系感染症、マラリアと皮膚疾患（膿瘍・化膿症）、そして住血吸虫症、外傷等が挙げられる。

（2）予防接種について

1）入国時義務付けられている予防接種

黄熱病ワクチンのみ（感染地域から入国のみ）

2）必要な予防接種

A・B型肝炎、ポリオ（追加）、狂犬病、破傷風

3）ウガンダ入国後、受けるのが望ましい予防接種

前述したとおりで、以下のワクチン接種を受けるのが望ましい。

ピースコーも接種をしている。ワクチンについては、Dr. Stokley のクリニックで入手出来るとともに、接種も可能。

髄膜炎（A+C）、腸チフスワクチン

4）その他

小児については、BCG、DPT、ポリオ、麻疹ワクチンを受けてくるのが望ましい。ただし、MMR等のワクチンについては、現地でも入手出来る。(Dr. Stokley Clinic で入手可能)

（3）医療サービス状況について

今回は、隊員が実際に利用できるクリニックと病院を中心に調査した為、民間病院の調査のみにとどまった。調査の詳細については、3）以下の項目を参照のこと。

「一般情報」

医療機器の面では、CTスキャンの設備はムラゴ病院（公立）にあるのみ。しばしば故障しており、常時検査が出来る状況では無いと言われている。MRIの設備を有する医療機関は無い。

血液銀行については、カンパラ市内（Local Cetral Blood Bank）にあり、民間病院に供給されるが、今回訪問出来なかったので、ルティーンテスト等について情報を得ることは出来なかった。ただ、C型肝炎抗体テストは実施されていないようで、外国人の中で輸血が必要となった場合、間に合えば隣国のケ

ニアあるいは南アへ緊急移送されているようである。

緊急の場合、登録されているリストから献血者を募り、Dr. Stokley 自身が採血し、スクリーニングをしている状況である。

民間病院の入院設備については、ナースイングホーム程度の規模の病院があるのみ。オープンシステムで開業医も入院させることが出来る。しかし、ICU等の設備は無い。マラリアや下痢等の疾患で1～2日程度の入院に利用出来る。病院にはレジデント医が常駐しているが、夜間についてはパートタイムの医師が当直となる。検査については、検査室が整備されておらず、最低必要限度の検査しか期待出来ない。

手術については、虫垂炎程度までの手術は可能であるが、それ以上の場合、ケニアあるいは南アに紹介あるいは移送となっている。

薬は常時必要なものが入手出来るとは限らない。

1）JOCV 隊員の受診について（案）

通常であれば、以下の順序で受診することを提案したい。

a）外来診察一般（検査も含む）　The Surgery クリニック（Dr. Stokley）

↓　医師の指示

入院　Kololo 病院　（ Dr. Stokley が主治医）

↓

緊急移送　The Surgery　あるいは Kololo 病院から（Dr. Stokley がアレンジ）

↓

ナイロビ病院

b）健康診断実施　The Surgery クリニック受診

（同クリニックで採血、検便・検尿検査を受ける）

↓

検査室（Ebenzer Ltd. Clinical Laboratory）

一部の検査（血液）はここの検査室に依頼される

↓

レントゲン検査（胸部）

（X-raycare & Ultrasound Clinic, Pan World Centre）

ｃ）専門医の受診について

Dr. Stokleyから紹介を受ける

ｄ）歯科受診について

Dr. Alikerのデンタルクリニック受診（50 Lumumba Av. , Nakasero）

ｅ）予防接種について

Surgeryクリニック（Dr. Stokley）で接種出来る。ただし、英文訳の説明書を添付する。

２）現地顧問医の発掘について

Surgery クリニック（Dr. Stokley）で、一般診察、健康診断、入院のアレンジが出来るので、当分契約をしないで静観して良いだろう。

３）主な医療施設について

ａ）The Surgery

Main Surgery：British High Commision Building, 12A Parliament Ave.

Tel：256003（Reception), 346994（Doctors Office),

075-766770（Dr. Stokley cell)

077-756003, 075-756003（24時間救急）

面談者：Dr. Stockley

６月 12 日訪問。ウガンダ在住の外国人や他国ボランティア（VSO, Pease Corps 含む）が利用しているクリニック。ストックレイ医師は、ボランティアの対応に熟知している。英国出身の医師で一般医であるが、ウガンダ滞在 20 年であることから熱帯病にも精通している。他に１人の常勤医師（Dr. Elhardt）とパートタイマーの医師がいる。その他のスタッフとして看護婦と受付担当者がいる。検査技師はいないが、マラリアや検尿便等の簡単な検査は、医師自身が行っている。他の検査についてはクリニックで採血し、他の検査センターへ依頼している。職員は全員外国人である。

超音波検査機器（Toshiba Sono-Layer SSA-250a）１台、ECG１台を有するが、レントゲン室は無い。ジエネレーターがあるので停電の心配は無い。

抗マラリア薬（アーテナン等）、各種の抗生物質及び町の薬局で購入できないワクチンを保管している。

面談の内容は以下のとおり。

・予約制。診療時間は平日は８時～18 時。土曜日は９時～13 時と 17 時。日曜日は 10 時～12 時と 18 時。オンコール制を取っているので、24 時間医師との連絡が可能。必要であれば往診出来る。

・隊員の健康診断実施についての承諾（ヘルスレコードを手交し説明）
指定された検査項目については実施可能。

・受診料は初診が 20US$。検査代と簡単な薬代を含む。ただし、マラリアの場合、30US$。同疾患で再診の場合のみ無料。

・ワクチンの注射についても承諾。ただし、英文訳の説明書添付が必要。

・国外緊急移送患者発生時の対応については、ICAA のコーポレートメンバーとして登録しているので、クリニックからのアレンジが出来る。

・抗ウイルス剤を保管。（薬品名不明）医療事故等があれば即内服を開始する。10 日目に PCR 法でウイルスの増幅がなければ内服中止。

・マラリアの治療はアーテナムとドキシサイクリンの混合治療を実施。

・不必要な薬の投入と検査はしない方針。

・支払い方法には４種あり。①その都度現金で支払う。②月末に一括して支払う（Statement)。③フラットレート（年間 1,000US$を払うのみ)。④保険会社カバー。
JOCV から、レターを書いて契約を結ぶと後払い可能となる。

・他国ボランティアの中には、現地人のボーイフレンドやガールフレンドを持つケース（約 90%）が非常に多い。性病、UTI 疾患に加えて、HIV/AIDS 感染者が出ている。コンドームの使用の徹底を何度も指導する必要がある。病気として、一般的に子宮頸癌、B 型肝炎が多い。また、死因については、交通事故・AIDS・殺害が多い。

・ジアルディア症と住血吸虫症（湖に入った既往者）が非常に多いので、帰国直前に治療を受けることを勧める。

b）KOLOLO Hospital

16 Kawalya　Kaggwa close Kololo
Tel：256-41-231-935, 242-435, Fax: 257-824
面談者：Dr. Mary fMagara,　Mrs. Kazoola(Administrator)
６月 12 日訪問。

入院施設を持ち外国人も利用する民間病院。ベッド 25 床（４床は小児用)。ジエネレーター所有。手術室２室（１室は小手術用)。救急外来室を有するが、殆どの緊急医療機器は備わっていない。(電気細動除去器、人

工呼吸器、挿管チューブ等が無い)。ICU も血液銀行も無い。検査室はあるが、最低限の生化学と血算ができるのみ。ポータブルレントゲンがあるが、胸部レントゲンのみ撮影可能。超音波検査機器(Fhillips, SDR 3250)と心電図器がある。

面談で得た情報は以下のとおり。

・入院の支払いについて
契約を締結すると後払い可能。デポジット金不要。契約内容に支払い方法を記載(月末あるいは、ステートメントを受け取り次第支払う)する。また、隊員のリストを送付するか、メンバーであることを証明する ID を提示させる。更に、入院時、レターを送付する。

・医師は2名が常勤。夜間は外部の医師が診察にあたる。

・一日平均の外来患者数は 20 名程度。分娩数は3件/週。

・入院室についは、個室2室(バスタブとトイレ付き)と2人部屋、3人部屋(トイレは共同)を有す。朝食は入院費に含まれるが、昼食と夕食代は別料金。メニューがあるので選択可能。

＊詳細については別添の資料参照

c)歯科クリニック

Dr. Paul Aliker , Dr. Nganwa Rukandema

50 Lumumba Ave. Nakasero

Tel : 041-254858, 777242 (Dr. Rukandema : Cell),

077-721511 (Dr. Aliker : Cell)

Dr. Aliker は、USA でトレーニングを受けた評判が高い歯科医(口腔外科)。

徹底した消毒(オートクレーブ)を行っている。患者が交代する毎に椅子の消毒も行う。得た情報は以下のとおり。

・予約制。

・診療時間　平日と土曜日:8時~17 時

・初診:10,000Ush.、レントゲン代:5,000Ush.

・診察台は2台。レントゲン設備あり。

・処置について
矯正以外は出来る。歯科技工士がいない為、充填以外のクラン作成等については、ケニアか南アに依頼。1ヶ月程度の期間を要す。

d）レントゲン検査

Dr. Mubambe , X-raycare & Ultrasound Clinic.

Pan World Centre, Next to Greenland Bank, Nkrumah Rd.

Tel：345095, Fax 345095

２台のレントゲンを有す（Fhillips)。超音波検査１台（Fhillips）余り鮮明に撮影出来ないとの噂を聞くが他に無い。

e）検査室

Ebenzer Limited. Plot 1 Bombo Rd. SURE House, 1st Fr.

Tel：342-255v

殆どの検査が可能。民間病院からの依頼を受ける。検査項目及び料金については別添の資料を参照。

f）緊急移送保険会社

AAR 視察。専用の飛行機を所有していないので、Eagle Aviation Ltd.からハイアーするか、ナイロビの AMREF へ依頼。現在では殆ど国内で飛行機の手配が出来るとのこと。SOS（AXA）と提携している。

専用のヘルスセンターがあり医師もいる。契約等の詳細については別添資料参照。

g）薬局

Exemphar Pharmacy By Curry Pot Kampala Rd.

Tel：250665, 347216 (tel/Fax)

外国製の抗生物質を入手出来ると言われているが、常時入手出来るとは限らない。処方箋無しで一括購入が可能であると言われたが、今後調査が必要。

h）血液バンクについて

今回調査できず。今後調査が必要。

（4）マラリアについて

1）罹患状況と感染地域について

罹患および死因と共に１位を占める。

全国で１年中を通して感染が見られる。主要都市でも感染があると言われるが、カンパラ市内では、感染者が少ないようである。

2）予防内服について

WHO（International Travel & Health）では旅行者へ Mefloquine の服用を奨励。

カンパラに在住する外国人は、濃厚感染地域や湖周辺へ旅行する時のみ服用しているケースが多い。(Doxycycline あるいはPaludrineの服用)。

3）治療について

Surgery クリニックやKololo病院では、Artenam + Doxycyclineの治療。

他に、Fansidar, Metakelfin, Mefloquine, Halfanを使用。

ただし、公立では軽症マラリアについては、第1選択としてクロロキン第2にファンシダルが使用されている。(ディスペンサリー、ヘルスセンターレベル)

4）予防対策について

a）抗マラリア剤

現地で購入可：

クロロキン、パルドリン、ファンシダル、メタケルフィン、キニーネ、ハルファン、メフロキン、カマキン、アーテナム（時々在庫無し）

購入不可：

コテオキシン、パルサー等

b）抗マラリア剤以外について

現地で購入可：蚊取線香（ただし、日本製は入手不可)、マット（本体については常時入手は困難)、蚊帳、蚊帳の防虫液（Joint Medical Store で入手可)、独製防虫スプレー（クリームローションタイプもある)、殺虫スプレー（Doom, Baygon)

c）検査法

濃塗標本が主流。QBC（AAR検査室で最近開始)、The Surgery では Rapid（メーカーについては不明)

5）ワクチンについて

a）現地で入手出来るワクチン

保管量は少ないが、Surgery Clinic（Dr. Stokley）で以下のワクチンの接種を受けることが出来る。

①EPI関係のワクチン

全部接種可能。ポリオワクチンにつては、経口と注射の両方がある。

DT や MMR ワクチンもある。

②その他のワクチン

	製造名	価格
Hepatitis A	Havrix	100,000 Ush
Hepatitis B	〃	30,000
Rabies	Pasteur Merieux	
Tetanus Toxoid	〃	6,000
Meningococcal A + C	〃	25,000
Typhoid (Typhim Vi	〃	20,000
BCG	〃	
Yello Fever	Smith-cline	30,000
Snake bite serum	ストック有り	
Hib (Haemophillus influenza type b)	ストック有り	

(5)生活用品および衛生材料について

1)生活用品について

現地で購入可：水フィルター、コンタクトレンズ洗浄液（時々入手）

購入不可：スペアキャンドル

2)衛生材料等について

購入可：生理用品（日本製は無いが、ナプキンとタンポン有り）、華氏体温計、血圧計、バンドエイド、包帯、弾性包帯、絆創膏（マイクロポアー）、爪切り

購入不可：摂氏平体温計、婦人体温計、体温表、氷枕、アイスノン、バルサン、ゴキブリホイホイ

(6)その他特記事項（取り扱い注意、コピー禁）

1)元ピースコー医療調整員からの情報入手

10月に事務所が再開する為、現在は待機中。ウガンダ在中の外国人で米国人では無い。

健康管理上の問題として、HIV感染／性病感染予防対策が問題。

また、メンタルヘルスケースでの相談が圧倒的に増加している。

2)Dr. Stokleyからの情報

既述したとおりであるが、健康管理は性病とHIV/AIDS感染予防がキーポイント。

3）ウガンダ全体のHIV/AIDSについて

ウガンダでは、HIV/AIDS感染者数は190万（累積）と言われている。そのうち、約50万は既に死亡している。AIDS死亡数は年間死亡全数の7～12%を占めている。ここ数年で、HIV／AIDS感染者数は減る傾向（ある地域）にある。都市部での感染率は10～20%（対住民）、農村部では4～10%を占める。しかしながら、15～19才迄の女性の感染率は高く同世代の男性の約6倍となっている。実際に、カンパラのあちこちで、商売風の若い女性を見かけた。

4）今後の対策

以上の現状を踏まえ、徹底したHIV/AIDS感染防止対策を検討する必要がある。もはや、エイズは隠された病気では無い。感染防止対策については、医療隊員に限ることなく、一般隊員についても抗ウイルスを持参させる、あるいは事務所に保管出来るような体制を早急に検討すべきである。

保健指導については、着任時はもちろんであるが、3～6ヶ月頃に再度強化する方法が望ましい。Dr. Stokleyに講議をしてもらう、あるいは可能であれば、実際に病院に収容されている患者と対話させる等の案を講じるのも一方法と思われる。

「今後の調査項目」

（1）現地で入手可能な抗ウイルス剤について

（2）血液銀行について（Mulago Hospitalも含む）

（3）各緊急移送取り扱い店について

カバーされる医療サービス範囲、支払い面、保険代理店の采配無しで飛行機の手配が可能か。

（4）要請背景調査（ICU看護婦）

ICU内にある医療機器について、個数、メーカーと型番号を調べる。

（5）医療機関との契約書作成

（6）現地顧問医の発掘

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

要請番号（ 277 － 00 － 1 － 01 ）

記入日：平成１２年７月２５日
調査者名：津川　智明

国名	職種名	区分	受入希望人数	派遣希望時期
ウガンダ	（日本語）野菜（職種コード 105） （現地公用語）VEGETABLE GROWING	◉新規 ○交替 代目	1 人	13 年 1 次 ☐絶対

配属先概要

1）配属省庁名（日本語）農業・畜産・水産省
（現地公用語）Ministry of Agriculture, Animal Industry and Fisheries

2）勤務先名（日本語）ムコノ農業普及訓練所
（現地公用語）Mukono District Farm Institute (Mukono DFI)

3）勤務先住所　ムコノ
主要都市（ カンパラ ）から 20 Km
交通手段（ 車 ）で 0.5時間

4）事業内容及び予算
日本の農業学校のような教育・訓練施設と実習・展示農場を持ち、農業省職員、農業普及員等の研修、農民の日帰り研修並びに国際機関やNGOが支援する農村地域の社会・生活改善（栽培技術、公衆衛生、エイズ撲滅、環境保全等）に係わる研修を行っている。職員数は25名、年間予算485千米ドル。

要請概要

1）要請理由（目的）
1998年8月から畜舎・農場整備・灌漑施設・教育施設・給水施設等の建設と1999年3月から農場・財務運営、農民教育、作物、畜産の分野で日本の技術協力が行われてきた。2,000年6月でプロジェクトは終了したため、この技術協力を引き継ぎ、より協力効果を高めるため野菜の隊員が要請された。

2）隊員の地位（日本語）技術指導者員　（現地公用語）Technical advisor

3）期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲
農民の希望を取り入れながら野菜栽培の改善に取り組む。一方、試験研究に対して現場の意見を反映させるために、現場に出向き農民の声を直接聞き、それを栽培技術に反映させることが求められる。従って、現場に密着して業務を実施していく姿勢が特に重要となる。
栽培する品種は、ニンジン、豆類、メイズ、キャッサバ等であり、それぞれの作物ごとに専門の圃場が確保されている。また、栽培方法だけでなく、生産から販売までの必要経費の記録等も活動の一つとして期待されている。実務経験が２年以上あることが望ましい。

4）隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式、設備等（写真添付のこと）

5）カウンターパート（人数、学歴、経験、地位、年齢）
農業単科大学卒業生

6）指導対象者の技術レベル、年齢
農民

7）訓練すべき言語（ 英 ）語

8）外国の援助状況（含む専門家、ボランティアの配置）
JICA無償資金協力（1998～2000）

条件

学歴、経験、資格、性別（受入に不可欠な条件のみ記入）
大学卒（農業系専攻）
実務経験

生活

生活環境：気候（ 温暖 ）乾期 12 月～ 2 月　雨期 3 月～ 5 月）・気温（ 22 ℃位）
任地の人口（ 人）・日用品：価格（☐高い ☒普通 ☐安い）、品質（☐良い ☒普通 ☐悪い）
物資（☐豊富 ☒普通 ☐欠乏）

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日：平成１２年７月２５日
調査者名：津川　智明

要請番号（ 277 - 00 - 1 - 02 ）

国名	職種名	区分	受入希望人数	派遣希望時期
ウガンダ	（日本語） 家畜飼育 （職種コード 141 ） （現地公用語） Animal Husbandry	◉新規 ○交替 代目	1 人	13 年 1 次 □絶対

配属先概要

1) 配属省庁名（日本語） 農業・畜産・水産省
（現地公用語） Ministry of Agriculture, Animal Industry and Fisheries

2) 勤務先名 （日本語） ムコノ農業普及訓練所
（現地公用語） Mukono District Farm Institute (Mukono DFI)

3) 勤務先住所 ムコノ
主要都市（ カンパラ ）から 20 Km
交通手段（ 車 ）で 0.5時間

4) 事業内容及び予算
日本の農業学校のような教育・訓練施設と実習・展示農場を持ち、農業省職員、農業普及員等の研修、農民の日帰り研修並びに国際機関やNGOが支援する農村地域の社会・生活改善（栽培技術、公衆衛生、エイズ撲滅、環境保全等）に係わる研修を行っている。職員数は２５名、年間予算485千米ドル。

要請概要

1) 要請理由（目的）
1998年8月から畜舎・農場整備・灌漑施設・教育施設・給水施設等の建設と1999年3月から農場・財務運営、農民教育、作物、畜産の分野で日本の技術協力が行われてきた。2000年6月でプロジェクトは終了したため、この技術協力を引き継ぎ、より協力効果を高めるため家畜飼育の隊員が要請された。

2) 隊員の地位（日本語） 技術指導員　（現地公用語） Technical Advisor

3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲
農民の現場の希望をくみ取り、訓練所で研究・改善し、その成果を農民研修をとおして現場に普及させる。従って、訓練所で家畜飼育の技術指導だけでなく、周辺の農家を訪問して農民のニーズを把握し、飼育方法を農民に普及させることが求められる。家畜は牛、豚、鶏、ウサギ等である。また、牧草の栽培技術や国家農業研究組織(NARO: National Agricultural Research Organization)の研究成果を農民に指導・普及することも業務の一つとなる。
実務経験が２年以上あることが望ましい。

4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式、設備等（写真添付のこと）

5) カウンターパート（人数、学歴、経験、地位、年齢）
農業単科大学卒業生

6) 指導対象者の技術レベル、年齢
農民

7) 訓練すべき言語（ 英 ）語

8) 外国の援助状況（含む専門家、ボランティアの配置）
JICA無償資金協力(1998～2000)

条件
学歴、経験、資格、性別（受入に不可欠な条件のみ記入）
大学卒（家畜飼育系専攻）
実務経験

生活
生活環境：気候（ 温暖 ）乾期 12 月～ 2 月　雨期 3 月～ 5 月）・気温（ 22 ℃位）
任地の人口（ 人）・日用品：価格（□高い ☒普通 □安い）、品質（□良い ☒普通 □悪い）
物資（□豊富 ☒普通 □欠乏）

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

要請番号（ 277 － 00 － 1 － 03 ）

記入日：平成１２年７月２５日
調査者名：津川　智明

国名	職種名	区分	受入希望人数	派遣希望時期
ウガンダ	(日本語) 獣医師 (職種コード 145) (現地公用語) Veterinary Medicine	◉新規 ○交替 代目	1 人	13 年 1 次 ☐絶対

配属先概要

1) 配属省庁名（日本語）　農業・畜産・水産省
（現地公用語）Ministry of Agriculture, Animal Industry and Fisheries

2) 勤務先名（日本語）　家畜診断疫学研究所
（現地公用語）Diagnostics and Epidemiology Centre

3) 勤務先住所
エンテベ
主要都市（ エンテベ市内 ）から Km
交通手段（ ）で 時間

4) 事業内容及び予算
動物（牛・山羊・豚・鶏・羊等）の病気に関する診断・調査・研究をし、さらにそれらの知識を農民に普及させる活動を行っている。年間予算は約80千米ドル、スタッフは11名。
平成11年にJICA短期専門家が当研究所で技術指導を行った。

要請概要

1) 要請理由（目的）
家畜診断疫学研究所には大学で勉強し、資格を持った獣医はいるが実地経験が不足している。また、検査機材が十分活用されていない。研究所の活性化を図ると共に現地調査と検査を広く行い病気予防を強化するとともに、病気等についての知識を農民に普及させるために要請された。

2) 隊員の地位（日本語）獣医師　（現地公用語）Veterinarian

3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲
カウンターパートと共に動物の病気の予防、診断、治療、さらに伝染病の場合は拡散防止の処置を講ずる。また、地域を巡回しながら農民へ家畜飼育指導や家畜の定期診断等の活動を行う。当検査所には検査のための資機材があるが十分活用されておらず、それらの使用方法について担当者に指導も行う。研究所全体の活性化に寄与することが期待されている。
獣医師として実務経験が5年以上あることが望ましい。

4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式、設備等（写真添付のこと）

5) カウンターパート（人数、学歴、経験、地位、年齢）
Dr. R.O. Ademun: Senior Veterinary Officer (Diagnostics)
Dr. N. Nantima : Senior Veterinary Officer (Epidemiology)

6) 指導対象者の技術レベル、年齢
農民

7) 訓練すべき言語（ 英 ）語

8) 外国の援助状況（含む専門家、ボランティアの配置）
FAOからUS$6,000、　ドイツのGTZがパソコンを供与している。

条件

学歴、経験、資格、性別（受入に不可欠な条件のみ記入）
大学卒
実務経験

生活

生活環境：気候（ 温暖 ）乾期 12 月～ 2 月　雨期 3 月～ 5 月）・気温（ 22 ℃位）
任地の人口（ 人）・日用品：価格（☐高い ☒普通 ☐安い）、品質（☐良い ☒普通 ☐悪い）
物資（☐豊富 ☒普通 ☐欠乏）

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日：平成１２年７月２５日
調査者名：津川　智明

要請番号（ 277 - 00 - 1 - 04 ）

国名	職種名	区分	受入希望人数	派遣希望時期
ウガンダ	（日本語） 金属加工 （職種コード 234 ） （現地公用語） Metal Works	◉新規 ○交替 代目	1 人	13 年 1 次 ☐絶対

配属先概要

1) 配属省庁名（日本語） 教育・スポーツ省
（現地公用語） Ministry of Education and Sports

2) 勤務先名（日本語） チャンボゴ教員養成学校
（現地公用語） Institute of Teacher Education, Kyambogo

3) 勤務先住所 チャンボゴ　主要都市（ カンパラ ）から 3.0 Km　交通手段（ 車 ）で 0.3時間

4) 事業内容及び予算
チャンボゴ教員養成学校は教員養成・調査研究・カリキュラムの開発そして教員養成指導の刷新等、幅広く活動をおこなっている。また、小学校教員養成専門学校、国立教員養成専門学校、特殊教育専門学校を統括し国内の教員養成分野において指導的役割を果たしている。年間予算は約2,134千米ドル。

要請概要

1) 要請理由（目的）
授業の中の実習科目の一環として金属加工実習がある。この科目を指導する実習講師が不足しており講師補完のためと、また同僚講師の技術を向上させるために要請が出された。

2) 隊員の地位（日本語） 実習講師　（現地公用語） Technician

3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲
学生に対して同僚講師とともに各種工作機械の操作指導を行い、それらの機械を使いながら作品を製作することを指導する。高度な技術的指導より旋盤や溶接機器といった工作機械の適切な操作方法の指導が主な業務である。
工作機械の維持管理方法を同僚講師に指導することも求められる。
実務経験が2年以上あることが望ましい。

4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式、設備等（写真添付のこと）
旋盤、溶接器具

5) カウンターパート（人数、学歴、経験、地位、年齢）
Mr. V. Ogwaro (Lecturer)
Mr. R.Obua (Assistant Lecturer)

6) 指導対象者の技術レベル、年齢
学生

7) 訓練すべき言語（ 英 ）語

8) 外国の援助状況（含む専門家、ボランティアの配置）
Technical Assistance Cooperation (TAC)

条件
学歴、経験、資格、性別（受入に不可欠な条件のみ記入） 大学卒 実務経験

生活
生活環境：気候（ 温暖 ）乾期 12 月～ 2 月　雨期 3 月～ 5 月）・気温（ 22 ℃位）
任地の人口（ 人）・日用品：価格（☐高い ☒普通 ☐安い）、品質（☐良い ☒普通 ☐悪い）
物資（☐豊富 ☒普通 ☐欠乏）

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日：平成１２年７月２５日
調査者名：津川　智明

要請番号（ 277 - 00 - 1 - 05 ）

国名	職種名	区分	受入希望人数	派遣希望時期
ウガンダ	（日本語） 看護婦(ICU) （職種コード　511 ） （現地公用語） Nursing	◉新規 ○交替 代目	１　人	13 年 1 次 ☐絶対

配属先概要

1) 配属省庁名（日本語）　保健省
（現地公用語） Ministry of Health

2) 勤務先名　（日本語）　ムラゴ病院
（現地公用語） Mulago Hospital and Complex

3) 勤務先住所　カンパラ
主要都市（　カンパラ市内　）から　Km
交通手段（　）で　時間

4) 事業内容及び予算
ベッド数は1,500床、看護婦数は正看護婦300名の国内最大の病院。マケレレ大学医学部および看護学校を抱える教育機関としての役割とウガンダ全体から重症患者が運ばれてくる国の中心的医療機関としての役割を持つ。年間予算は約8,667千米ドル。

要請・概要

1) 要請理由（目的）
国内で唯一の集中治療室(ICU)を備えた病院である。このICUにおける看護技術の質の向上と、准看護婦の育成および医療機器の使用や管理指導等をおこなうため要請が出された。

2) 隊員の地位（日本語） ICU看護婦　（現地公用語） Intensive Care Nurse

3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲
主な業務はICU担当の看護婦とともに臨床指導者として働きながら技術的な指導を行うと共に、ICUの質の向上と准看護婦の育成を計ることである。重症患者は国内全土から当病院に運ばれてくるため、ICUの充実は非常に重要である。
また、ICUに備えられている医療器具の取り扱いと維持管理についても知識と経験が求められる。
ICU担当として５年以上の経験があることが望ましい。

4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式、設備等（写真添付のこと）
人工呼吸器、自動輸血ポンプ、心電図モニター、酸素ボンベ

5) カウンターパート（人数、学歴、経験、地位、年齢）
Sister E. Naigaga　40歳、正看護婦
（日本で研修経験有り）　その他5名の看護

6) 指導対象者の技術レベル、年齢

7) 訓練すべき言語（　英　）語

8) 外国の援助状況（含む専門家、ボランティアの配置）
日本の無償資金協力で機材供与がなされた。（1997年）

条件
学歴、経験、資格、性別（受入に不可欠な条件のみ記入）　ICUでの実務経験

生活
生活環境：気候（　温暖　）乾期 12 月～ 2 月　雨期 3 月～ 5 月）・気温（　22　℃位）
任地の人口（　人）・日用品：価格（☐高い ☒普通 ☐安い）、品質（☐良い ☒普通 ☐悪い）
物資（☐豊富 ☒普通 ☐欠乏）

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

要請番号（ 277 － 00 － 1 － 06 ）

記入日：平成１２年７月２５日
調査者名：津川　智明

国名	職種名	区分	受入希望人数	派遣希望時期
ウガンダ	（日本語） 看護婦（手術室）（職種コード 511 ） （現地公用語） Nursing	◉新規 ○交替　代目	１ 人	13 年 1 次 □絶対

配属先概要

1）配属省庁名（日本語） 保健省
（現地公用語） Ministry of Health

2）勤務先名 （日本語） ムラゴ病院
（現地公用語） Mulago Hospital

3）勤務先住所
カンパラ
主要都市（ カンパラ市内 ）から Km
交通手段（ ）で 時間

4）事業内容及び予算
ベッド数は1,500床、看護婦数は正看護婦300名の国内最大の病院。マケレレ大学医学部および看護学校を抱える教育機関としての役割とウガンダ全体から重症患者が運ばれてくる国の中心的医療機関としての役割を持つ。年間予算は約8,667千米ドル。

要請概要

1）要請理由（目的）
手術室担当の看護婦の技術レベルの向上を計るとともに手術室の管理指導をおこなうために要請された。

2）隊員の地位（日本語） 手術室看護婦　（現地公用語） Operating Theatre Nurse

3）期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲
当病院はウガンダ最大の病院であり、CTが設置されており、腎臓や頭部の手術も可能であるが技術レベルは高いとは言い難い。国内全土から重症患者が運ばれてくる重要な病院であることから、より高度な最新の技術が求められる。そこで、手術室の担当看護婦への技術指導と手術室の管理が期待されている。手術の中で特に胸部手術の経験があるとよい。
手術室担当で3年以上の経験があることが望ましい。

4）隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式、設備等（写真添付のこと）
手術に必要な器具と機材はそろっている。

5）カウンターパート（人数、学歴、経験、地位、年齢）
Ms. Simmbwa Bunnya - 看護婦および助産婦で20年の経験有り。手術室担当としては4年の経験

6）指導対象者の技術レベル、年齢

7）訓練すべき言語（ 英 ）語

8）外国の援助状況（含む専門家、ボランティアの配置）

条件
学歴、経験、資格、性別（受入に不可欠な条件のみ記入） 手術室担当で実務経験

生活
生活環境：気候（ 温暖 ）乾期 12 月～ 2 月 雨期 3 月～ 5 月）・気温（ 22 ℃位）
任地の人口（ 人）・日用品：価格（□高い ☒普通 □安い）、品質（□良い ☒普通 □悪い）
物資（□豊富 ☒普通 □欠乏）

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

要請番号（ 277 - 00 - 1 - 07 ）

記入日：平成１２年７月２５日
調査者名：津川　智明

国名	職種名	区分	受入希望人数	派遣希望時期
ウガンダ	（日本語）視聴覚教育 （職種コード 634 ） （現地公用語） Audio-Visual Education	◉新規 ○交替 代目	１ 人	13 年 1 次 ☐絶対

配属先概要

1) 配属省庁名（日本語） 大統領府
（現地公用語） Office of the President

2) 勤務先名（日本語） ウガンダ エイズ コミッション
（現地公用語） Uganda AIDS Commission (UAC)

3) 勤務先住所 カンパラ
主要都市（ カンパラ ）から 12 Km
交通手段（ 自動車 ）で 0.5時間

4) 事業内容及び予算
エイズコミッションは1992年にウガンダのエイズコントロールを目的に設立された委員会である。組織は政府の複数の関係省庁にまたがっており、エイズ教育に関する資料収集、統計作成、予防の為の啓蒙活動、本の出版および関係者への普及等を行っている。年間予算は約1,000千米ドル。 事務局スタッフは約15名。

要請概要

1) 要請理由（目的）
ウガンダは文盲率が高いため、エイズ教育を実施するにはビデオ等による視覚に訴えた啓蒙活動が効果がある。当委員会にはビデオ撮影の機材はあるが、機器を操作し啓蒙ビデオを制作する技術者がいない。従って、ビデオの撮影および編集を指導たり、機器の簡単な修理ができる技術者を必要としている。

2) 隊員の地位（日本語） 視聴覚技師　（現地公用語） Audio-Visual Officer

3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲
エイズ教育のために視聴覚機器を使ったビデオ等による教材の制作・編集方法の指導が主な業務となる。作製されたビデオフィルムは、委員会のメンバーが必要機材を車に積んで移動教室という方法でエイズ教育を行っている。また、エイズ教育のための情報収集や情報の活用もスタッフとともに行う。ビデオを使った広報の効果についての調査等も併せて実施することが期待されている。
2年以上の実務経験が望まれ、さらにコンピューターの操作知識があるとなおよい。

4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式、設備等（写真添付のこと）
S-VHS VTR built in Video Camera, S-VHS Recording, Timecode board, Editing Controller, Audio Focus Slide Projector, Screen with tripod, Portable Stereo Cassettee Tape Recorder, Portable CD-Double Cassettee/Radiorecord, DC Operate Audio Mixer with Amplifier 等

5) カウンターパート（人数、学歴、経験、地位、年齢）
情報アナリスト/経験4年/1名
記録映画製作者/経験2年/1名

6) 指導対象者の技術レベル、年齢

7) 訓練すべき言語（ 英 ）語

8) 外国の援助状況（含む専門家、ボランティアの配置）
日本政府から機材供与を受ける(1995年)

条件

学歴、経験、資格、性別（受入に不可欠な条件のみ記入） 大学卒 実務経験

生活

生活環境：気候（ 温暖 ）乾期 12 月～ 2 月　雨期 3 月～ 5 月）・気温（ 22 ℃位）
任地の人口（ 人）・日用品：価格（☐高い ☒普通 ☐安い）、品質（☐良い ☒普通 ☐悪い）
物資（☐豊富 ☒普通 ☐欠乏）

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

要請番号（ 277 - 00 - 1 - 08 ）

記入日：平成１２年7月２５日
調査者名：津川　智明

国名	職種名	区分	受入希望人数	派遣希望時期
ウガンダ	（日本語）体育（職種コード　701　） （現地公用語）Physical Education	◉新規 ○交替 代目	１　人	13 年 1 次 ☐絶対

配属先概要

1）配属省庁名（日本語）　教育・スポーツ省
（現地公用語）Ministry of Education and Sports

2）勤務先名　（日本語）　ウガンダ体育協議会
（現地公用語）National Council of Sports

3）勤務先住所
オールドカンパラ中学校
主要都市（　カンパラ市内　）から　Km
交通手段（　）で　時間

4）事業内容及び予算
ウガンダ全土の各種アマチュアスポーツの発展と振興を目的としている政府の団体。スポーツの振興と発展のため各種のセミナーや研修会を実施している。また、国内の才能あるスポーツ競技者を発掘し、優秀な競技者の育成も行っている。事務局スタッフは5名程度だが、各スポーツ毎にコーチを置いている。

要請概要

1）要請理由（目的）
ウガンダの小中学校では体育の教科はあるものの、理論に裏付けされ系統的なカリキュラムはない。同僚体育講師と協議しながら、実技指導をとおして小中学校における体育授業の改善を図る。

2）隊員の地位（日本語）体育講師　（現地公用語）Physical Education Teacher

3）期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲
カンパラ市内のオールドカンパラ中学校において同僚講師と共に体育の教授を担当しながら、体育の授業の改善を図る。また、カンパラ市内の他の小中学校を巡回しながら、体育の授業の実際を把握し体育の充実に協力する。
体育教師として2年以上の経験があることが望ましい。

4）隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式、設備等（写真添付のこと）

5）カウンターパート（人数、学歴、経験、地位、年齢）
体育担当講師

6）指導対象者の技術レベル、年齢
生徒

7）訓練すべき言語（　英　）語

8）外国の援助状況（含む専門家、ボランティアの配置）

条件

学歴、経験、資格、性別（受入に不可欠な条件のみ記入）
大学卒（体育系専攻）
指導経験

生活

生活環境：気候（　温暖　）乾期 12 月～ 2 月　雨期 3 月～ 5 月）・気温（　22　℃位）
任地の人口（　人）・日用品：価格（☐高い ☒普通 ☐安い）、品質（☐良い ☒普通 ☐悪い）
物資（☐豊富 ☒普通 ☐欠乏）

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日：平成１２年７月２５日
調査者名：津川　智明

要請番号（ 277 － 00 － 1 － 09 ）

国名	職種名	区分	受入希望人数	派遣希望時期
ウガンダ	(日本語) 体育 (職種コード 701) (現地公用語) Physical Education	◉新規 ○交替 代目	1 人	13 年 1 次 ☐絶対

配属先概要

1) 配属省庁名（日本語） 教育・スポーツ省
（現地公用語） Ministry of Education and Sports

2) 勤務先名 （日本語） チャンボゴ教員養成学校
（現地公用語） Institute of Teacher Education, Kyambogo

3) 勤務先住所 チャンボゴ
主要都市（ カンパラ ）から 3.0 Km
交通手段（ 車 ）で 0.3時間

4) 事業内容及び予算
チャンボゴ教員養成学校は教員養成・各種調査研究・カリキュラムの開発そして教員養成の刷新等、幅広く活動をおこなっている。また、小学校教員養成専門学校、国立教員養成専門学校、特殊教育専門学校を統括し国内の教員養成分野において指導的役割を果たしている。

要請概要

1) 要請理由（目的）
各種スポーツに関して、教員を目指す学生に対し、理論と実践を指導できる教員が不足している。体育の授業を充実し、理論と実践を指導するために要請された。

2) 隊員の地位（日本語） スポーツコーチ （現地公用語） Sports Tutor

3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲
ウガンダではサッカーがポピュラーであるが、バスケットボールやテニス、陸上をはじめ多くのスポーツが広くおこなわれている。いくつかの小学校では野球も楽しんでいる。これらのスポーツの正しい競技方法や実技指導を将来小・中学校の教員となる学生に対して授業をおこなう。従って、複数のスポーツに関して実技指導ができ、競技者としての経験も必要とされる。
2年以上の指導経験があることが望ましい。

4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式、設備等（写真添付のこと）
各種スポーツのボール、テニス施設

5) カウンターパート（人数、学歴、経験、地位、年齢）
Mr. Byaruhanga, Senior Lecturer
Prof. B. Mshelia, Visiting Professor

6) 指導対象者の技術レベル、年齢
学生

7) 訓練すべき言語（ 英 ）語

8) 外国の援助状況（含む専門家、ボランティアの配置）
Technical Assistance Cooperation (TAC)

条件

学歴、経験、資格、性別
（受入に不可欠な条件のみ記入） 大学卒（体育系専攻）
指導経験

生活

生活環境：気候（ 温暖 ）乾期 12 月～ 2 月 雨期 2 月～ 5 月）・気温（ 22 ℃位）
任地の人口（ 人）・日用品：価格（☐高い ☒普通 ☐安い）、品質（☐良い ☒普通 ☐悪い）
物資（☐豊富 ☒普通 ☐欠乏）